

# 道南

発行 2008年8月31日  
発行所 北海道道南会事務局  
連絡所 横浜市鶴見区生麦  
4-9-13-803  
TEL 045-505-9709  
FAX 045-505-9709

## 函館弁を愛する会

道南会会長 川守田孝平

本年一月開催の新年総会の際

に『函館弁を愛する会』を創ろう、と会員の皆様呼びかけました所、四十名程の方々の御署名を頂戴しました。当日署名されなかつた方もあると思いますので、これからも随時ご参加をお願いして行きたいと思っております。

総会でもお話ししましたが、この会は平成七年の夏、当時の和田名譽会長が懇親会の席上で、『私達道南で生まれ育った人間も、普段函館弁で話す事が少なくなつて来ているので、道南会で集まつた時は大いに函館弁で話し、この方言を大切に守って行きましよう』と、『函館弁を守る会』の発会を提唱され、三十二名の方々の署名を頂いて発足したものです。

その後これといった活動のないうまま、時が過ぎてしまつたのですが、折角、和田さんが残して下さつたこの会を、このまま埋もれさせてしまふのは勿体ない、と考え再び声をかけたわけですが。名称は何かの折に田沼名譽会長が『守る会』より『愛する会』はどうかと言われた事を思い出し、『函館弁を愛する会』

としました。

今の所、会則を作つて、活動の内容を明確にするなどの面倒なことは一切考えず、道南会の催しに参加した際には、皆さんと一緒にふるさとを思い出しながら、アズマシク函館弁を喋る事と、忘れかけた函館弁を思い出しながら、一つでも二つでも結構ですから、会報『道南』にお寄せ頂く事、これだけをお願いしたいと思つています。

次に載せる函館弁の会話も、早速会員の方が知らせて下さつたものです。前回と今回、御署名を下さつた方のお名前と一緒にご披露しますので、眼を通して見て下さい。

『函館弁を愛する会』署名者

朝倉敏夫・荒木道雄・池上謹之助・鶴島克孝・小熊勝夫・小山光・川村紀子・川守田孝平・川守田礼子・小坂鉄雄・郷内繁・小助川昭一・小林嘉則・小森良彦・佐藤 洋・佐々木豊子・澤株尚子・篠崎哲子・島田瑞子・新谷義克・菅原大作・瀬田松吉昭・染木トシ・竹中裕行・田沼修二・田村良人・田村

房江・千葉純子・鳥本玲子・中川和彦・中村隆俊・長島 康・納代鉄也・楢木久澄・成田慶子・沼崎貞良・沼崎茂子・比嘉裕子・平井忠義・二上達也・船矢敏朗・三国比左雄・三橋淑子・山木和子・山田克明  
(五十音順)

朝市の風景

山菜や野菜を売るのは、近在の農家のおつかさん達、常連だから、売り手と買い手が、毎朝のように顔を合せている。そのうちお得意さんも、きまるらしく、自分のお客の姿が見えると一声かける。

「お早うござえます。おぐさんの顔、もう見えるころだと思つて、待つてだんだよ」  
「そつがい。きょうは、なんが、ええものあるのがい？」  
「こしよいも掘つてきたのさ」  
「まだ、わけんで(若い)ないの」  
「すこしわけども、昨日うぢで塩煮したらうまがつたよ」  
「そつがい。少し買つがな、なんぼすんの、たげば(高い)買わねよ」  
「なんも。おぐさんにたば、いっつも負けてるべさ」  
「とつきみは？」  
「生だらひやく円で四本、茹でだのだから三本」  
「味瓜は？」  
「初もんだがら二つでひやく

円、どうだべ、高ぐねんでしょ。それから、まさがり南瓜うまさは保証づぎだよ。割つてなが身、見てからでも、かまわねよ。半分買ったほうが得だべさ」

今日も威勢のいい函館弁が飛び交つて市場は賑わつている。

参照

『北海道ことば風土記』

岡田文枝著



函館弁が飛交う朝市

# 函館市の状況

函館市長 西尾 正範

北海道南会の皆様におかれましては、日頃より、市勢伸展に多大なご協力を賜り、誠にありがとうございます。

貴会は、昭和三十五年の設立以来、約半世紀の間、固い結束のもと、幅広い分野における積極的な活動により現在の隆盛を築かれており、川守田会長をはじめ歴代会長、役員のご尽力に改めて深く敬意を表します。

今回、会報に寄稿する機会をいただきましたので、若干紙面をお借りして、当市の最近の状況についてご報告させていただきます。

## 【行財政改革】東京事務所の閉鎖】

本年三月末を持ちまして、皆様に支えられ、長きにわたり函館市の首都圏における拠点としてご愛顧いただいた東京事務所を閉鎖したところであります。貴会の皆様におかれましては、種々ご不便をかけることとなりますが、交付税の削減、市財政の逼迫など地方自治体を取り巻く環境の厳しさから、悩んだ末の決断であり、地域の実情を

賢察のうえ、ご理解をいただきますと存じます。

これまで、皆様から東京事務所に賜りました多大なご支援に對しまして、ここに改めて、深く敬意と感謝の意を表します。

今春の機構改革に伴い、従来「ナッチャンワールド」が所属する「企業誘致推進員」(嘱託職員)を東京に常駐させ、情報収集、情報提供を行うことといたしました。最近の企業誘致の実績としては、臨空工業団地の分譲価格を約四十%引き下げ

るなどの取り組みが奏功し、この春、観光土産品卸売りなどを手がける北海道ロヒアン商事(札幌)、食品検査装置製造の日新電子工業(東京)の二社が同団地への進出を決定したところであります。臨空工業団地への企業進出は七年ぶりであり、今後とも、精力的に企業立地の促進に努めてまいりますので、皆様におかれましては、企業誘致推進員の活動にも変わらぬご協力を心よりお願い申し上げます。

また、北海道南会をはじめ、ふるさと会の窓口は、観光コンベンション部のブランド推進課が担当することとなりましたので、忌憚のないご意見、ご要望を賜りますとともに、首都圏の貴重な情報をご提供くださいますようお願いいたします。

## 【「ナッチャンWorld」が就航】

昨年に運航を開始した東日本フェリーの世界最大級新高速フェリー「ナッチャンRera(レラ)」に続き、二隻目の「ナッチャンWorld(ワールド)」が五月二日就航し、函館市港町の同社函館ターミナルでは、就航と函館開港百五十周年を記念する「津軽海峡・海と大空のフェスティバル」が賑やかに

行われました。同日からの高速船ダイヤはこれまでより一日三往復から六往復に倍増。七月二十五日、八月三十一日の繁忙期は、七往復に増便されます。同船は、一隻目の「ナッチャンRera」と同型で、全長百十二メートル、総トン数約一万トン。乗客は最大約八百人、乗用車三百五十台を運ぶことができます。青森と函館を二時間で結ぶこの双胴船は優雅な外観、安定性、高速性など、人氣が集まるファクターに溢れており、地域振興の起爆剤、青函観光ルート造成の新たな切り札



として、大いに期待をされています。

就航の日は気温が二十度近くまで上がり、平年の最高気温を五度も上回る陽気でした。第一便が函館港に姿を見せると、上空をヘリコプターが旋回し、華やかに装飾されたヨットなどが海上パレードを行うなど、盛大な出迎えとなりました。

この便で函館入りした青森市佐々木誠造市長をはじめ青森市の関係者も参加し、大勢の人で賑わうターミナルにおいて記念式典が執り行われましたが、その中で、佐々木市長と私は「青函交流宣言」を

取り交わし、青函両地域の発展に向けた協力を改めて確認したところでありました。双子の高速フェリーが両市を結ぶ確かな絆となり、青函交流が新たなステージに飛躍することを心から期待するものであります。

【ふるさと「はこだて」を応援して下さい】函館市ふるさと納税のお知らせ】

今年度よりスタートした「ふるさと納税」制度を受け、当市におきまして、ホームページ上に、寄附を呼び掛ける「ふるさと応援ページ」を立ち上げました。この制度は、生まれ故郷などの地方自治体に寄附した場合に、居住地での住民税が一部控除されるものです。

函館を愛する人を広く「函館人」と位置づけて、「函館人よ。生まれ！」をキャッチフレーズとして取り組んでいるところであり、通称「ふるさと納税」とされていますが、過去に住んだことのない市町村への寄附でも同様に税額控除を受けることができますので、皆様のご友人で、函館に愛着をお持ちの方がいらつしやれば、どうかお声をかけていただければ幸いです。五千円を超える部分の寄附金が控

除対象となり、控除される金額は住民税の一割程度が上限となります。詳しくは本文末尾記載のホームページをご参照いただくか、財務部管理課にお問い合わせください。

【函館に「元氣」を。アントニオ猪木さんが観光大使に。】

六月二十五日から約一カ月、全編函館ロケで撮影している映画「アカシアの花の咲き出すころ ACACIA」のPRのため、函館市栄誉賞受賞者の芥川賞作家、辻仁成監督と主演の元プロレスラー、アントニオ猪木さんが六月二十四日、市役所にいらっしやいました。

懇談を前に、私から猪木さんにはごだて観光大使の委嘱状を手渡したところでありました。わずか一カ月の撮影期間とは言え、大勢の情熱溢れるスタッフに囲まれ、ストーリーにふさわしい選り抜かれた撮影ポイントで、全霊を込めて演技する一カ月間というのは、猪木さんが函館を愛する「函館人」になるのに十分な期間だと思ひ、猪木さんに観光大使をお願いしたものでありま

した。

ところが懇談の中で、辻監督によれば、「ロケ地は、猪木さんの『函館だったら(出演を)引き受ける』のひと言で決まった。」とのこと、猪木さんは、既に何度も来函されており、函館の大ファン。特にイカ刺しが大好きだったことが明らかになりました。勿論、観光大使の就任をご快諾いただき、「函館を『元氣』にしたい」と全国的にPRする強い意欲を示してくれました。

「アカシア」は、かつて悪役覆面レスラーで、今は函館の古い市営団地で孤独に暮らす初老の男性と、少年との心の交流を描く作品で、孤独死や年金問



題、いじめなどの社会問題を問うとともに、家族のきずなとは何かを訴えるストーリー。来年春公開予定ですので、劇場公開の折には、是非皆さん映画館に足をお運びください。私も時間があればエキストラで出演したいと思っておりますが、

とにかく、猪木さんの言葉通り、「元氣」のない街は衰退する一方です。確かに厳しい状況ではありますが、そういう時こそ、官民力を合わせて知恵を出し、「元氣」を取り戻すしかありません。私も、子供たちの笑顔と地域の未来のため、全力を尽くしてまいりますので、北海道南会の皆様におかれましては、これまでと変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに皆様のますますのご健勝、ご活躍をお祈りいたしまして、近況のご報告といたします。

関係連絡先

観光コンベンション部ブランド推進課

電話

0138-21-3323

財務部管理課

電話

0138-21-3204

ふるさと応援ページURL

http://www.city.hakodate.hok

kaido.jp/zaimu/hurusato/hurusato\_top.html

喜頓生誕百年記念事業  
函館市民ミュージカル  
『案山子物語』

函館生まれの喜劇俳優、故益田喜頓さんの生誕百周年を来年迎えるにあたり、これを記念して喜頓さん原作の市民ミュージカル「案山子物語」が来年九月二十一日、浅草公会堂で上演される事に決まりました。

この物語は「じつちゃんかかし」と孫娘の「ペコ」が台風に乗って世界中を巡り、そこで出会った人達と交流を深める物語で、「愛と平和」がテーマになっています。

平成六年三月の函館での初公演には、喜頓さんも出演する予定でしたが、三カ月前に他界されたため実現出来ませんでした。

初公演のあと札幌でも上演され高い評価を受けていますので、来年の浅草公会堂での上演の際には、是非皆様にご観覧頂きたいと思っております。

道南会新年総会

平成二十一年一月二十四日(土)

時間 午後一時開会

場所 日本プレスセンター

多数の「」出席をお待ちしております。

同窓会の活動状況

柏野会 (登坂幸作会長)

四月十九日

ライオン銀座七丁目店 九十八名

関東地区清雲同窓会

(新山春一会長)

五月三十一日

九段会館 百二十四名

東京東川会同窓会

(渡邊宏司会長)

六月七日 キャツスル 五十一名

東京函商同窓会

(薬袋 泰会長)

七月十二日 日本外国特派員協会 百九十五名

白楊ヶ丘同窓会東京支部大会

(安田康次会長)

十月十八日(土)

青山ダイヤモンドホール

東京弥生会

十一月 日時未定

日本橋三越デパート

遺愛女子高校同窓会

東京支部クリスマス会

(支部長 島田瑞子)

十二月五日(金)

アイビーホール青学会館

訃報

高橋俊一様

二十年五月二十二日逝去

南川貞治様

二十年六月二十日逝去

「冥福をお祈り申し上げます。」

# 函館の河川と街路樹

## (一) 亀田川

亀田川は、横津岳に連なる函館市最高峰の袴腰岳（標高一〇八m）に源を發し、赤井川、雁皮川、精進川、笹流川と合流して大森海岸に至る流域面積四十三・五m、全長二十一・一kmの二級河川です。

亀田の地名は「津輕一統志」[一六六九年（寛文九年）]の中に「亀田 川あり澗家二百軒」と記される古くからの地名です。もとはアイヌ語のシ・コツ（シは「大きい」、コツは「窪地沢」の意味）と呼ばれていましたが、シコツの音が「死骨」に通じ、縁起が悪いとして、「龜は万年」に通じるめでたい意味を持つ亀田に改めたとされています。一方で、近くに大龜の住む池があったからという説もあります。

## (二) 願乗寺川

昔の亀田川は、白鳥橋、鍛冶橋（梁川公園）の付近から亀田八幡宮を通って、函館港に注いでいました。当時の河口近くにあった橋の名を万年橋といい、現在でもバス停や小学校・幼稚園の名前として名残があります。

当時の箱館は地蔵町（現在の末広町、豊川町付近）の外側に人家は少なく、これは砂州の上で井戸水が確保しにくい環境だったため、湿地が多かったことによるものでした。そこで願乗寺の僧侶堀川乗経は、はんなりの多い亀田川の治水と市中の飲料水確保を目的に松川弁之助らと水路を開くことを計画、資金集めに奔走し、工事を敢行しました。水路は現在の中橋から高砂通りに沿って銀座通り（当時は掘割が存在）に至る約四km、一八五九年（安政六年）十一月に完成しました。五稜郭築城の人夫も工事にあたったと伝えられています。

水路の完成は沿岸地域の飲料水確保を可能にし、箱館の街が東部へ発展する契機にもなりました。箱館奉行所では新亀田川と名付けたこの水路を、市民は堀川乗経にちなんで願乗寺川と呼びました。



新川

## (三) 新川

願乗寺川の沿岸地域に人家が多くなるにつれて川水の汚染が進みました。一八七七年（明治十年）、一八八二年（明治十五年）、一八八六年（明治十九年）にはコレラが蔓延、それぞれ五百、八百人が亡くなったと伝えられており、願乗寺川がその汚染源とされました。川が運んでくる土砂が港内に堆積し埋まるなどの影響もありました。

道庁はオランダ人モルトルの案により、亀田川を中の橋付近から大森浜へ一直線に切り替えることとして一八八八年（明治二十一年）に開通、この流域は新川とよばれるようになりました。願乗寺川は川岸に沿って樋による仮水道を設けて埋め立てられ、約三十年の短い歴史を終えました。水利確保という初期の目的を翌一八八九年（明治十二年）に開通する上水道へと引き継ぐ役割を果たしたのでした。

## (四) 亀田川とダム

現代の亀田川は、流域の市街化の進展により治水安全度が低下し、たびたび洪水被害が発生したため、北海道が河川改修工事に着手、一九九九年（平成十一年）に竣功しました。主な工事として護岸の拡幅改修や親水空間の整備、二十一の道路橋の架け替え・新設を行ったほか、水道水源専用の中野ダムを治水なども含めた多目的ダムとしてかさ上げ改修し、一九八四年（昭和五十九年）、高さ七十四・九mの新中野ダムとして完成させました。

新中野ダムの麓にあるダム公園は、ダムと森林が持つ水源保全の役割を、自然の中で楽しみながら学ぶことを目的に整備され、北海道の主要な四つのダム（大雪ダム・豊平峡ダム・笹流ダム・新中野ダム）のミニチュアや、多目的広場などが設けられています。

## (五) 街路樹

函館の街路樹植栽の歴史は古く、五稜郭築城時（一八五七～一八六四年）に植栽されたアカマツと同じものが杉並町や中道付近にも残されているほか、同時期に植栽された国道五号アカ





マツ並木もその代表例です。明治初頭にも街路樹の植栽の記録があり、当時から進取気鋭のまちづくりが行われていたようですが、度重なる大火や塩害により枯死したのも多かつたと考えられます。

一九三四年（昭和九年）の大火以前は街路樹としてクロマツ、ニセアカシア、シダレヤナギが多く植栽されていました。昭和三十年代にはケヤキ、シナノキ、ヤチダモが、昭和四十年代には再びニセアカシアが植栽されるようになりましたが、ニセアカシアは強風に弱くトゲがあることなどから使われなくなりました。

が早く公害に強いプラタナスが植栽されたものの、葉が茂りすぎて視界の妨げになり、せん定が容易でないことから、昭和五十年代に入るとナナカマドなどが植栽されるようになりました。

二〇〇六年（平成十八年）現在、高木はプラタナス、ナナカマド、クロマツなど約二万八〇〇〇本、中低木はツツジ類、オノコ（イチイ）など約二十一万五〇〇〇本の街路樹が植栽されています。

### （六）グリーンベルト

明治から昭和初期にかけ数多くの大火に見舞われた函館は、防災を目的とした都市計画が進められ、防火帯としての広幅員道路と緑樹帯（グリーンベルト）の導入が図られるなど今日の街の姿を形づくる基礎となりました。

一九三四年（昭和九年）三月に発生した大火は、焼失区域四一六ha（市総面積一九〇四haの約三割）、罹災戸数二万四〇〇〇戸（総戸数四万二〇〇〇戸の約六割）、罹災者は十二万五〇〇〇人（総人口二十二万人の約六割）という未曾有の大災害でした。

この大火の復興では、内務省は函館の復興を重視し、大火から二週間後には関東大震災の復



整備されたグリーンベルト

興計画の経験を踏まえた先進的で意欲的な都市計画として「函館大火復興計画案大綱」を定め、一九四〇年（昭和十五年）までの短期間で復興を果たしました。

復興計画の最大の特徴は幅員五十五m（三十間）と三十六m（二十間）の「緑樹帯」と命名された広路を函館山、公園、海岸に向かって市内縦横に配置して防火区画の実現を図り、広路の交点に官公庁を集合配置し、起終点に市民の避難場所を兼ね

た鉄筋コンクリート造りの不燃建造物（学校、寺院）を置いたことでした。

当時は災害復興の区画整理を道や市が実施する制度はなかったのですが、この函館大火の教訓により、一九三九年（昭和十四年）、都市計画法が改正されて災害復興区画整理制度が充実することとなりました。

こうして函館大火を契機とした緑樹帯整備の思想は、戦後の各地の戦災復興計画にも受け継がれ、仙台の定禅寺通り、名古屋の久屋大通、広島の高島緑地など緑地としての役割が大きい街路、河川がうまれました。

注：本文は、函館商工会議所から平成十八年十二月に発行された函館歴史文化観光検定「はこだて検定公式テキストブック」の中から、函館商工会議所のご承認を得て掲載しました。

### 新入会員紹介

（ ）内は出身小学校

岩川孝夫（東川）

須藤 珠実さんの紹介

鷗島克孝（松風）

瀬田松吉昭さんの紹介

大田雅子（弥生）

石畑きね子さんの紹介  
奥寺美代子（函館出身）

吉井 聆子さんの紹介  
小野寺文男（巴）

葉袋 泰さんの紹介  
川村紀子（札幌大付属）

岩船 寛さんの紹介  
簡 和弘（上磯町峨朗）

佐藤 則道さんの紹介  
佐伯恵子（千代ヶ岱）

千代ヶ岱小同窓会で勧誘  
佐伯梅四郎（東京出身）

佐伯恵子さんのご主人  
櫻井正光（東川）

納代 鉄也さんの紹介  
佐々木静子（幸）

佐々木豊子（幸）元会員・復帰  
佐藤 洋（函中）

田沼名譽会長の紹介  
高木清子（松風）

成田 慶子さんの紹介  
竹田一枝（幸）

川守田会長の紹介  
田辺貴子（函館出身）

田辺三重松画伯の孫  
平井忠義（青柳）

沼崎副会長の紹介  
水島敏夫（弥生）

川守田会長の紹介  
宮島ひろ（高砂）

朝倉 敏夫さんの紹介  
船矢敏朗（万年橋）

若林岑夫（弥生）  
納代 鉄也さんの紹介

# 函館の料理

道南会名誉会長  
田沼 修一

函館を中心とする道南地方は、

わが国有数の食材の供給地である。真昆布、鰯、干鰯、身欠き鱈、貝柱、干海鼠(ほしなまこ)など「乾きもの」といわれた海産物は幕末時代から貿易品として、また慢性的に蛋白質の不足する山間の人々に珍重されてきた。

一方、ほとんど無限に獲れた鱈は今も幻の魚になっているが、するめいか、かに、雲丹、牡丹海老、蝦蛄、赤貝、北寄貝、鮭、ヒラメ、ソイ、ホッケ、更に津軽海峡の一本釣りの鮪など、今や全国の鮪屋の欠かせない素材となっている。

これらの食材をふんだんに使った函館料理は確かに旨い。しかし、これは料理というより、食材の味に頼り、その持ち味を生かしているに過ぎない。独特の味として誇る「いか素揚げ」「ほっけの一夜干し」「松前漬け」「鮭の飯鮓」にしてもほとんど素材が勝負である。

一説によると、関東大震災で壊滅的な打撃を受けた江戸前の料亭の多くは関西に、一部は北洋景気に沸く函館に移ったという。確かに子ども頃、両親に連れられて

行った料亭(たとえば十字街の八百亀)の寄せ鍋や天麩羅には関東風の濃い味がした。「阿佐利」の鋤焼きも関東風であった。これは後年仕事の関係で転勤や出張して各地の料理を食べ歩く機会が多かった自分の舌で立証することができる。

もともと関西の味は、松前から運ばれた昆布で出汁をとり、料理の基本においてきた。だから関西風の味は薄味で、食材の持ち味を生かした洗練されたところに特徴がある。多量の塩分を必要とする肉体労働者の多かった江戸の味は、鰹節で出汁をとり醤油をたっぷり使った濃い味が好まれた。関西の薄味の「うどんのつゆ」、関東の濃い「蕎麦つゆ」は両者の特徴を端的に表している。現在の函館の味は関東・関西の味付けを巧みに使い分けながら地元食材を生かしているようで結構なことである。

また、戦前から函館には「彩華」や「来々軒」などの中華料理



店が繁盛していたが、長崎や横浜のように地域を越えてグルメの集まる中華街が成立しなかったのは、もともとあまり手を加えずとも美味しい食材に恵まれすぎた結果かも知れない。近頃評判の函館塩ラーメンが幕末に沢山の中国貿易商人が住んでいた函館の伝統の上に作られたものとは思えない。

今一つ函館には「五島軒」という開港直後から営業しているフレンチ料理店が健在なのは結構なことであるが、戦前我々の口福を楽しませてくれたロシア料理店「クラマ軒」に続くロシア料理の専門店が見当たらないのは淋しい。中学時代は料理店は元より喫茶店に入ることすらタブーであったから、卒業して上級学校に進む仲間と解散コンパを開いたのは、舟見坂の上にあったクラマ軒で、黒パンにキャビアやイクラ、ボルシチを食べながら未来の夢を語り合った忘れがたい味でもあった。

北洋漁業の根拠地としてロシアとの縁の深い函館に戦後本格的なロシア料理店を見ないのは奇異な感じがする。もっとも代表的なロシア料理の前菜のイクラやキャビア

ア、鮭の燻製などは現在の日本人には抵抗はない上に日常的に家庭料理に取り入れられている。しかし、ロシア料理を代表する、肉と野菜を煮込んだグワツシユやボルシチは味がしつこく馴染みにくいことも事実である。

いずれにせよ、まれに見る美しい観光資源に取り囲まれた函館が、恵まれた食材を多様に料理して、グルメの集う観光地として売り出すことを期待したい。「いか素揚げ」だけではいささか淋しいではないか。

## 私の 函館

道南会副会長  
板垣 寿見子

近頃、近所の友人に誘われ、私も歌が好きなのですから、時々カラオケに出かける様になっております。そんな時たまたま北島三郎さんの「函館の人」(ちよっと古過ぎますけどね)を朗々と歌っている方に出会うと、嬉しくなってしまう。

なぜならカラオケの画面には、あの懐かしい八幡坂の景色が映っているからです。坂の突き当りには道立函館西高校があ



り、その直ぐ下には私が六年間通いなれた、函館白百合学園があるからです。  
私は一九三六年、函館の十字街が最も隆盛な頃の、末広町三八番地で生まれました。その頃、父は函館証券(株)という会社を経営していて、店頭には毎日のように函館のお金持ちが、相場を見にやって来ておりました。お正月になると、当時海産商をしていた、宮崎さんというお客様は、私達七人姉妹一人一人に、ピン札の一元札を「ハイ、お年玉だよ」と言ってお下さったのを、今でもよく覚えております。  
我が家は丁度丸井デパートの斜め前にあり、坂を三つ登って行って左に入った所に、大谷幼稚園がありました。私がこの幼稚園に通ったのは三カ月程だけで卒業しておりませんが、今から二十一年前に、当時の園長先生(大塚先生)が上京され、有楽町のニュートーキョーで同窓会

が開かれました。

子供の私から見れば園長先生は、立派な大人に見えました。に、お話を聞きましたら、十七歳で園長をなされていたとの事でした。そして当時の私たちの名前を皆、覚えていて下さっていたのには、二度びっくりしてしまいました。

それから私は、青柳小学校の黄色組へ入学。この時は背が低いというだけで、虚弱体質扱いになり男女共学の組でした。青柳小学校は昨年創立百三十年を迎えましたが、今でも私を通った当時の校舎の姿を、そのまま保っております。本当に素晴らしい建築で、東京のどんな小学校にも負けない、施設を完備しておりました。

この小学校時代、函館ハリスト正教会の牧師さんの娘さん増田あけみちゃんと仲よしになり、毎日の様に遊びに行っておりました。教会の周りにはいつもお花畑が広がり、エキゾチックな教会の中に入る事も何よりの楽しみでした。

そして夏になると、忘れられないグスベリ取り。皆さんもご存知と思いますが、グスベリはトゲトゲのある灌木で、うす緑色をしたピー玉大の、口を含むと梅干よりも酸っぱい味がしたものです。

私の函館での一番の思い出と言えば、元町のヨハネ教会、函

館ハリスト正教会、そして白百合のカトリック元町教会のある素晴らしい景色の中を、毎日のように遊びまわっていた事です。

そして中学、高校は姉達に通っていた白百合学園へと、親の言うコースを辿り楽しい函館時代を送りました。もし私が親の言う事を聞かずに、西高へ進学していたら、北島三郎さんと同級生になっていたかも知れないのにと、今更ながら残念に思っております。

五十年目の邂逅

「きつさこ」

道南会顧問

鳥本 玲子

「喫茶去」という喫茶店が、神保町にあることを、知っていらつしやるでしょうか。現在はジャズ喫茶です。

今、話題になっているテレビ朝日の、ちいさんぼ(地井武男が万歩計をつけて、訪れる町周辺の、職人風特技を持つ方、グルメなどを紹介する番組)に登場し、地井さんがその一隅でその日の散歩の心に残るお絵描きを、披露しています。テレビで見た、ご年配のマスターは、コーヒを沸でている時は「話しかけるな」と、地井さんは少々、お叱りを蒙った気配でした。



コーヒ好きで昔、ジャズに凝っていた私は、翌日、探しながら「喫茶去」に行つて来ました。神保町は出版社が多く、一寸足を伸ばすと、神田古書店街。近くに「周恩来ここに学ぶ」(1917-1919)という東亜高等予備校跡に記念碑がありました。

「喫茶去」の約二十席は、常連でうまっています。一番、音のとり易い席に座りましたが、割合簡単に、その日は帰つて来たのです。

再び訪ねた時は、山木和子さんと一緒に、実は私は五十年前から、ズットと「モーツアルト」という喫茶店を探しており、曖昧な記憶の中では、見つかりようも、ありませんでした。若いマスターに「50年前の事をお訊きするのは、ムリと思

ますけど、モーツアルトという、クラシックのお店、知りませんか」と聞きますと、くぐもった声で彼が答えた時は、一瞬解りませんでした。ここです。私は「エエツ」と驚き、涙が溢れてきそうな自分を、押えま

つた主人の許から、二歳半の女兒を連れて、函館に帰る途中東京に寄り、従弟が、傷心の私を癒して呉れようと、「モーツアルト」に連れて来てくれました。今、私の強い思い出は、大きく波打つてそこまで遡ります。患っていた主人は、前の晩、病床に正座して「これで終わりです」と言いました。私はブルブル震えながら、どうすることも出来なかつたこと。その翌日、

彼は、たった一人で、ひとりで黄泉の国に旅立って逝きました。「喫茶去」は、私に、五十年前の魅りの糸を、手渡してくれたのです。その七月が、又回つて参りました。

黒狐(こっこ)

東川 正秀

今から約七十年前程前の小学生の頃、読み、聞いた松前、知内地方に伝わる「黒狐」の話です。

一、前置き

私は、当初、小樽市の小学校に入りましたが、サラリーマンの父の転勤で、日本海に面した寿都の小学校に転校しました。寿都町は、昔は鯨景気で人口も二万人を超える町でしたが、私が転校した頃、鯨は獲れず、人口も三千人位と最盛期の七分の一程でした。町には栄華の名残の鎌御殿、立派な寺院や墓所、また裁判所、測候所などの国の出先機関、その上総合病院などもありました。鉄道も函館本線の黒松内駅との間を寿都鉄道が走っていました。当時の小学校は、国定教科書で全国同一のものでしたが、ただ一つ寿都の小学校では「北海

道教育読本」というローカル版の教科書があり、内容は全部北海道に関する事柄で、開拓史、民話、アイヌ伝説などで、例えば「函館になぜスランが自生して咲いているのか」とか、「コロボックル物語」などで、その中よりうる覚えではありますが「黒狐」の物語を書いてみたいと思います。

その前に、狐についてちょっと説明させていただきますと、狐は大方の人が想像する人に悪さをする「野狐」と、逆に人を助けたり、幸運をもたらす「善狐」の二種類あります。なお、善狐には、上から順に金狐、銀狐、白狐、黒狐、天狐の五階級があります。

二、伝説  
今の松前、知内付近に伝わる黒狐の話です。

昔、春になると海が白くなるほどの鯨が押し寄せ、何万石(米と同じく石で計算)と鯨が獲れていた頃、松前、知内近くの山に全身真っ黒な黒狐が住んでいました。黒狐は春になると、妖術を使って付近の海へ鯨を呼び集め、村人達を喜ばせておりましたが、それとは知らない松前藩の殿様(十代目、十三代目)は、黒い狐は妖怪だから悪いことが起きる前に家臣二人に命じて退治して死骸を持ってくるように命じました。主命を受



野狐・佐脇嵩之「百怪図鑑」

けた二人は早速、鉄砲、刀を持って黒狐の住む山へ向かいました。黒狐は二人が自分を殺しに来たことを知り、いろいろな妖術を使って逃げましたが、最後に力尽きて鉄砲に撃たれて殺されてしまいました。

二人は、黒狐の死骸をお城に持ち帰り、殿様より褒美として肉を貰いましたが、二人がその肉を食べると気が狂って変死してしまいました。一方、殿様は黒狐の毛皮をお城の庭に干していると、天から「毛皮を返せ」と大声がすると、一陣の風が吹き毛皮は空高く舞い上がり、やがて海へ落ちて見えなくなりました。

それから松前では黒狐の祟りで鯨が獲れなくなると言われていました。

なお、この黒狐を祀った「玄狐稲荷」が松前町に現在もあるとのこと。

(道南会員)

### 私と函館弁

長島 康

石川啄木の短歌に次のような故郷の訛を懐かしむ作品がある。

“ふるさとの 訛なつかし 停車場の 人ごみの中にそれを聴きにゆく”

人は皆故郷を持ち、故郷に育ち、故郷の言葉の中に沈潜しながら生きてきたと思う。私もれつきとした函館人として今でも函館弁が抜けきらず、たまに他人から冷やかされることもあった。しかし、これは故郷出身の証明になるものだと思わしく思っている。

今は亡き相馬正樹先生も平成14年夏季号に「方言としての函館弁」の中で「小学校に入学するまで育った地域の訛は生涯消すことができない」と言われたことには全く同感である。

私の函館弁はそんなに訛が強いわけでもなく、方言の語彙を入れて会話するわけでもないのに函館弁と指摘されるのはどうやら独特のイントネーションがあるようで、一度タクシーの運転手から「お客さん函館出身でしょう」と言い当てられてびっ

くりしたことがあった。

方言を考える場合の訛とは、広辞苑によると、標準語に比べて音韻上多少の相違ある地方的な発音またはその言語であると解釈され、函館弁などの弁とはその地域の言葉づかいであり、ものの言いっぷりを表し、方言は一つの国語が地域によって発達し、音韻、語彙、文法上相違する幾つかの言語団に分かれるとき、それぞれの言語を指していう。ある地方だけで使う共通語と異なる単語と定義されている。

そんな方言も世代の進化や地域の方言が融合化され共通語に変わって行くとか教育の普及が標準語の浸透となり、少しずつ方言が消えて行く運命にあるのは我々老人世代にとつて寂しい限りである。函館弁を含む北海道の方言については、前述の相馬先生の方言に関する一文に、地理的な展開、歴史の変遷などを経たない立ちで詳述されているのでここでは筆を止めたい。

前置きが長くなったが、私が日常的に使っており、こよなく愛する函館弁をこ披露させていただくと、同郷の仲間と夜会食する時は「オバンデス」の挨拶が始まる。これは函館人共通の言い回しのようにだ。また、子どもの頃は祖母と一緒にだったのでお年玉を貰う時は「はい、ウマク」「と言って差し出されたり、「マテニ」と丁寧な

扱いを要求されたりした。凍りつくような寒さを「シバレル、水が冷たいのを、シャッコイ」と言っていた。私はごみ捨てを「ナゲル」と言ってしまう、いまだにどうしても直らない。

また、食物の腐った状態を表現する「アメル」も良く使う。辛い、楽でないを「ユルクナイ」、疲れたことを「コワイ」、恐ろしいが「オツカナイ」、欲張りを「ヨクタカリ」、柔らかいを「ヤッコイ」、うまいことを言うが「ベンコフル」、びっくりする、驚くことは「ブツマゲル」、避けるを「ドケル」、加える、仲間に入れることを「カテル」、だるいことを「カツタルイ」などは今まで使ってきた言葉。現在も口に出る方言が自分自身の人生にすっかり根付いているものと自覚している。今後この方言文化を長く守り続けたいと思っている。

「北海道方言辞典」(石垣福男著)を本文の参考にしました。

(道南会員・柏野小出身)

(付言) 函館地方の方言については、現会長の川守田氏が会報・道南の平成11年夏季号から平成14年新年号まで6回にわたり掲載されており、ご参照ください。



東京ふるさと七飯会 総会

葉袋 泰記

平成二十年の「東京ふるさと七飯会」の総会は三月八日(土)正午、上野のふくしま会館で開催された。五十名の会員中二十名が出席。郷里から竹田博正副町長が出席され郷里の現況等を報告した。特に、北海道新幹線の進捗状況、作家新井満さんが作曲された名曲「千の風になつて」の記念碑が、誕生の地・大沼国定公園内に建立することになった。これを機会に七飯町の魅力づくりを新井満さんと一緒に考える講演会とシンポジウム



2008年 第19回 東京ふるさと七飯会定期総会

を四月に開催する等詳細報告があった。北海道南会から川守田孝平会長が出席され会員との交流をされていた。

藤谷末松顧問の乾杯により懇談に移る。ふるさとのワインで喉を潤し、和気あいあいの語らいが続ぎ、抽選会など楽しいひとときを過ごした。

東京奥尻島人会 総会

葉袋 泰記

「第三十五回東京奥尻島人会総会・陽春懇親会」は、平成二十年四月二十日(日)虎ノ門パストラル「鳳凰東の間」で、十三時より会員八十六名、来賓二十二名が出席して盛大に開催された。

岩藤毘会長の挨拶のあと、和田良司奥尻町長など来賓の方々の祝辞が続ぎ祝宴に移った。

会場では、奥尻島のPRの映像が映し出される中、特産品の販売が行われた。舞台では民謡歌手鎌田英一さんの美声による江差追分や歌が披露され、更には奥尻珍味お楽しみ抽選会で会場は大いに盛り上がりを見せた。

奥尻町では、今年度から高級食材として需要が著しい「海の黒ダイヤ・ナマコ」を島の新たな魚種として育成するため、北海道庁とともに取り組む。道は今夏から奥尻町で三年間で道内最大規模となる一五〇万匹の稚



ナマコを放流する計画

東京奥尻島人会では奥尻町が首都圏への地場産品の流通拡大を目指し、上板橋駅前の「上板橋南口銀座商店振興組合」が運営する「全国ふる里ふれあいショップ」上板橋とれたて村」にオープンしている「アンテナショップ」で会員が奥尻の物産販売の助勢を行う等、会をあげて会員が故郷・奥尻町のために何とか手助けをしようとする懸命に協力、活動中。また、七月の奥尻島室津祭りに毎年参加ツアーを実施し、昨年は三十五名が参加した。今年も計画、募集中。

新年総会出席者

〔来賓〕

函館市長 西尾 正範  
函館市企画部長 近江 茂樹  
函館市商工観光部長 櫻井 健治

函館国際コンベンション協会長 沼崎弥太郎  
北海道東京事務所副所長 三島 滋

北海道倶楽部広報担当調査役 上出 義樹  
AIR DO社長 滝澤 進

東京支店主席 八木澤和夫  
サッポロビール(株)広域営業本部 営業推進部専任部長 倉持 幸一

〔参加者〕

會田雅樹、朝倉敏夫、荒木道雄、池上謹之助、石畑きね子、泉龍夫、板垣寿見子、岩川孝夫、鷗島克孝、大田雅子、大塚幸夫、奥寺美代子、小熊勝夫、小山西内八重、小野寺文男、小山 光、笠川雅彦、加藤信利、金谷博治、川瀬俊吉、川村紀子、川守田孝平、川守田礼子、簡 和弘、菊池紀邦、木谷勝子、郷内 繁、神山茂郎、越野 誠、小助川昭一、小林寅雄、小林嘉則、小山和彦、小山慶子、斉藤勝美、佐

伯梅四郎、佐伯恵子、酒井哲美、坂本保子、櫻井正光、櫻川梅房、佐々木静子、佐々木豊子、佐藤純夫、佐藤則道、佐藤 洋、佐藤マサ、澤株正始、澤株尚子、汐谷 進、島田瑞子、神 れい子、新谷義克、菅原大作、杉田博子、須藤珠美、瀬田松吉昭、相馬 滋、染木トシ、高木清子、高橋順吉、竹田一枝、竹中裕行、田辺貴子、田沼修二、田村治雄、田村 仁、田村保子、田村房江、田村良人、丹野康男、続 薫、敦澤義彦、鶴本支郎、寺田耕治、土井真一、豊田利雄、豊田みさ子、鳥本玲子、中川和彦、中島恒也、中島利夫、長島 康、中村 崇、中森茂子、中山泰誇、納代鉄也、波間省三、檜木久澄、成田慶子、西谷康紫、沼崎貞良、沼崎茂子、根来美和子、野末和子、原 京子、原 ヒエ子、原田美恵子、比嘉裕子、平井忠義、福島 紀、福田裕子、富士昭一、二上達也、船矢敏朗、古井勝春、北條義寛、堀内洋子、本間和吉、松浦和彌、三國比左男、水島敏夫、三橋淑子、葉袋 泰、南谷金明、三村寿雄、宮島ひろ、森岡偉行、矢内喜代、八鍬紀人、安田康次、山本和子、山下弘治、山田克明、吉井聆子、吉田 孝、若林岑夫、渡邊一郎、渡邊宏司、木村拓美(函館市民会館館長)

# トライリンガル

読売新聞東京本社 専務取締役  
論説委員長 朝倉敏夫

「ボクはトライリンガルなのだよ」と冗談を言ったことがある。1993年、論説委員会室のテレビで奥尻地震の被災模様を見ていた時のことである。

職場の同僚たちは、テレビに流れる被災者たちの言葉がほとんど聞き取れないという。ところが、函館出身の私には、ちゃんと聞き取れる。英語も多少分かるから、バイリンガルどころかトライリンガルなのだど威張って見せた次第である。

ただ、その時、奥尻住民の話し方には、津軽弁の影響が色濃く残っているように思われた。思い返してみれば、私が十八歳までを過ごした当時の旧函館近郊では、日本海寄り方面では津軽弁的、下北半島に對面する下海岸方面では、南部弁的響きが濃厚だった。

いや、狭い旧函館市内に限っても、一、二時間も歩き回れば、津軽弁的な響きが優勢な地域、南部弁的な響きが支配的なところ、それに北陸的なアクセントが厚く重なっている地域など、かなり多様だった。たとえば、「ゆるくない」という函館・北海道弁も、実際には、「ユルグネ」と発音している人も多かったような気がする。

そう思うと、函館弁とは、どういふ範囲のものを言うのだろうか

と、少々、疑問にならないでもない。他方で、北海道全体を見て、明治維新後、全国各地からの集団入植もあつたから、出身地の方言から来た様々な地域の変異がある。当然、函館弁イコール北海道弁ではない。

ただ、漢と函館弁といえるものがあるとするれば、それが青森、秋田、岩手の北奥三県をはじめとする東北弁の圧倒的な影響下に形成されてきたものであることは間違いないであろう。お陰で、私は、東北弁系統の方言の聞き取りには苦勞しないうすむ能力が身についた、というわけである。これは、

わが人生における大きな財産だった。

もっとも、全国いずれの地方出身者にとつても、自分が身につけた地元弁というのは、それぞれの財産だろう。たとえば、九州出身者がナマの地元弁で話している、私はほとんど聞き取れない。政治部の一線記者だった若い頃、ある熊本県選出の国会議員と付き合っていたことがある。その議員は、普段は地元との電話連絡を東京弁でしていたが、時々、熊本弁に切り換えてしまう。多分、目の前にいる私に聞かされたくないことは、熊本弁にすれば分かるまいと思つたのだろう。そのとおり、まったく分からなかった。

現在、日経新聞で、「望郷の道」という小説を連載している。主人公は福岡県人で、その福岡弁のセリフは、活字で読んでいても、時々、分かりにくいことがある。多分、耳で聞いているだけなら、半分も分からないのではないかと思つたりする。今年、NHKの大河ドラマで放映している「篤姫」の登場人物たちは、地元待まで薩摩弁ではなく江戸弁近似語を話しているから、セリフはよく分かるが、違和感もないではない。

さて、私は、高校卒業後は、一応、東京弁を話しているつもりなのではあるが、いまだに時々、「朝倉さんは東北の出身ですか」などと聞かれてしまう。半世紀近く東京で暮らしていても、言語感覚の基層に、函館弁が根雪のように残っているようだ。

(道南会会員・万年橋小出身)

## 函館市東京事務所送別会

今年の3月末で閉鎖される函館市東京事務所職員を送別会が、3月19日、東京・港区新橋のピヤホールライオン新橋店で、東京事務所を連絡先として利用させていただいていた道南会とあすの道南を拓く会、函館観光大使などの有志、36人が出席して行われた。

会では、最初に、杉澤順一氏(福島会)が、「我々ふるさと会は、資金的にも独立した事務所を設けることができないところが多い。その点、東京事務所は会の打ち合わせや連絡先事務所として非常に大きな役割を果たして来られた。その拠点がなくなることは大変残念。今後は函館市にふるさと会の窓口ができる」と聞いています。

が、東京事務所がなくなっても郷里・函館との絆が途切れることなくふるさと会への支援をお願いしたい」とあいさつした。

続いて、東京事務所の會田雅樹所長と西谷康紫副所長、比嘉裕子事務員に花束と記念品が贈られた。

次いで、田沼修二氏(道南会)が「東京事務所がなくなることは残念だが、今後のふるさと会と函館市の一層の発展を祈念して乾杯したい」と述べてグラスを挙げて、送別会が始まった。

送別会では、事務所を通じて、常に共に活動してきた、いわば仲間集まりということもあつて終始和やかな雰囲気の中、各所で会話が弾んでいた。

最後に、會田所長が「事務所長に就任して一年半。私が最後の所長となつたのは残念。在任中は、道南会の皆さんを始め、多くの方々のご支援があつて仕事を進めることができたことに改めて感謝したい。東京事務所はなくならない。函館市としてはふるさと会の活動に今後とも全面的にご支援したい」と、送別会のお礼とふるさと会や同窓会などに対する今後の函館市の支援体制を述べ、午後8時過ぎに終了した。



函館の景観

平成20年の新年総会・懇親会は、1月19日(土)午後1時より、東京都千代田区内幸町の日本プレスセンタービル10階ホールで、来賓・新旧会員など134人が出席して行われた。

新年総会は、福田裕子幹事の司会で、最初に沼崎貞良副会長が開会宣言を行って始められた。

続いて、川守田孝平会長が年頭のあいさつとして、「我々道南会は、道南地区の応援団として何をなすべきかを考えながら活動しているが、今年も微力ながら協力したい。ところで、北海道には北海道弁が、函館には函館訛りがある。私は故郷の訛りは心の安らぎを与えてくれると思っている。会報にも書いたが、今から7年前に故和田会長が「函館弁を守る会」を提唱され、32の方が賛同され活動したことがある。これを継承する形で「函館弁を愛する会」を立ち上げたい。ご賛同いただける方はぜひご参加いただきたい。函



館弁を愛する会は特別な活動をやるわけではないが、新年会や夏季懇親会などの会合の際には極力函館弁で話すこととし、更に会報に函館弁の単語だけではなく、函館弁を用いた例文などを掲載するようになりたい。我々が故郷との共通語である函館弁を使うことで道南と道南会の絆を一層強めていきたい」と述べた。

続いて、板垣副会長が、西尾正範函館市長、沼崎弥太郎国際観光コンベンション協会会長などの来賓を紹介した。

来賓を代表して、西尾市長が「昨年4月に市長に就任した。北海道は不景気で元気がないと言われるが函館にとって明るい話題の一つは、昨年6月に南茅部で出土した中空土偶が縄文早期と認められ国宝に指定された。大変愛らしい顔をしており、北の「ピナス」と名付けた。出土した南茅部に青森の三内丸山遺跡と同じような縄文交流センターを作りつつある。十字街の旧丸井デパートを改修してNPO活動の支援センターを作ったが半年で約6万人が利用している。五稜郭の箱館奉行所の復元工事も順調に進められている。函館は、公立はこたて未来大学、北大水産学部、函館大学、教育大学の研究活動が活発に行われているが、10年後にはそれらの大学を中心に世界的な海洋研究都市を作ろうと考えている。函館は北海道と東北地方の真ん中に位置し、交通の要衝として重要な役割を果たしている。新幹線は平成27年度末の函館までの延伸工事が進めら



れ、平成22年には青森まで開業する。新幹線が最終的に函館まで延びると、東京・函館間は3時間40分で結ばれる。そうなれば空路だけではなく、新幹線の利用者も増えて、観光やビジネス客が大幅に増えることが期待される。函館市の東京事務所を3月末で廃止する。事務所の維持費に年間4千万円かかるということも廃止の理由の一つだが、今やインターネットで国の政策や情報が入手できるし、電ケ関の中央省庁への交渉は担当者が航空機を利用して直接出張した方が良くと考えて廃止することにした。なお、東京事務所は道南会を始め多数の同窓会やふるさと会の窓口ともなっていたが、市役所の担当課で引き受けることにした。一方、函館の企業が東京との取引を増やすとか企業誘致の窓口としての役割が多くなっていったが、秋葉原のはこたて未来大学東京連絡所に市の企業担当者を置いて対応することにした。東京事務所の廃止は決して東京を切り捨

てることではないのでご了承いただきたい。景気が悪いと言われながらも函館には、資源や人材は豊富なので、諸先輩の皆さんに恥じないような元気な街を目指している。皆様に企業情報などをお知らせいただければ担当者が直接飛んでくるような足腰の軽い市役所にしたい」と、函館の近況報告を兼ねた挨拶をした。

続いて、沼崎函館国際観光コンベンション協会会長が「函館の観光客は、平成10年が534万人で一番多かったが、18年は486万人でピーク時より50万人減少した。しかし、19年は500万人に達しつつある。一方、今市内は将来の新幹線函館開業を見越した本州資本のビジネスホテルの建設ラッシュが続ぎ、最終的に5000室位増えると思われる。函館はどこを掘っても温泉が出るので新設ホテルの多くは温泉が付いている。最近では、団体より個人やグループ旅行が多く、ホテルが増えて最も多く影響を受けるのは湯の川のホテル街ではないか」と述べた。

続いて、総会議事として、葉袋副会長が19年度の事業報告と役員人事の改選結果、20年度事業計画を報告。沼崎副会長が19年度の決算報告と3年後の道南会創立五〇周年に向けた特別積立基金百万円を設けたことを報告。いずれも原案通り承認された。瀬田松監事が監査報告を行った。

この後、木村函館市民会館長が、来年の益田喜頓生誕百周年記念行事として来年9月に浅草公会堂で行う函館市民が中心となったミュージカル公演を紹介。公演への協力を要請した。

総会議事終了後、田沼名誉会長がこの日の参加者中92歳で最年長の佐藤洋氏と一緒に、会の発展と参加者の健康を祈念して乾杯・祝宴に移った。会場内には函館市の観光ボスターが多数貼られて雰囲気盛り上げたほか、各テーブルにはさきいかやいかの燻製、鮭トバなどの珍味やワインなどが供され、故郷・函館を思い出させていた。各所で函館弁が飛び交う中、賀詞交換や挨拶が交わされていた。祝宴の半ばには、22人の新入会員が板垣副会長から紹介された。

この日の余興では、櫻川流カッポレが賑やかなお囃子と唄に合わせ5人の踊りが披露され多くの拍手が送られていた。また、民謡・金谷流の金谷博治氏が三味線を弾きながら北海道歌と武田節を熱唱し、拍手を浴びていた。

この後の恒例の福引抽選会では、東京・函館往復航空券やハンデイトーチラジオ、ワイン、ガゴメ昆布醤油、脳トック無料受診券など140点以上の景品が用意され、賞品が当たる度に各テーブルから歓声が上がりが会場内は大いに盛り上がった。

抽選会の余韻が残る中、三村常任幹事の一本締めで中締めをし、次回の再会を約して午後3時過ぎ閉会した。

なお、この日の参加者にはお土産として、函館塩ラーメンとお菓子、はこたてふうらいぼう(北海道製菓提供・本社函館市)のセットが配られた。

# 道南会行事報告

## 「新年総会」

一月十九日(土) 午後一時開会  
プレスセンターホール(別掲)

## 「新宿御苑・観梅会」

二月二十一日(金)

この日は朝から快晴、良い梅見日和だった。梅の見ごろの場所を探して早速宴を開き、花とお酒とお喋りを楽しんだ。記念撮影のあと、日本庭園辺りを散策し解散した。参加者 四十名

## 「光が丘公園・観桜会」

四月四日(火)

二年続けて雨のため中止になっていた花見だが、この日は素晴らしい天気恵まれ、月例会としては最高の参加者があった。大江戸線の光が丘駅前から、いちよう並木が真っ直ぐに続くふれあいの径をしばらく進むと、満開の桜の花に囲まれた様な芝生広場の中に、一寸小高い場所があり、そこに陣取り宴を開いた。二年ぶりのお花見は、天候にも場所にも恵まれ、楽しい時間を過ごした。参加者 五十名

## 「皇居東御苑散策」

五月十三日(火)

台風接近のため中止

## 「明治神宮菖蒲苑」

六月二十一日(土)

雨のため中止

## 「第五回道南会」

### 「ゴルフコンペ」

七月九日(水)

道南会会員のゴルフ愛好者が、年に一回一堂に会して日頃の腕を競う、第五回ゴルフコンペが、七月九日(水)、千葉県印西市大森の習志野カントリークラブグリーンコースで、六組二十一人が参加して行われた。

この日は、梅雨の合間の青空が広がり、気温も高くなく微風の快適なコンディションの中で熱戦が繰り広げられた。

成績は、初参加の佐藤則道氏が41、36、クロス77、ハンディキャップ3.6、ネット73.4というぶつぎりの成績で優勝、ベストクロス賞も併せて獲得した。二位は沼崎貞良氏、三位渡部良孝氏であった。

## 「皇居東御苑散策」

七月十二日(土) 午後一時半

皇居東御苑は皇居の一角にある付属庭園です。当日は梅雨の晴間で暑さも格別、本年初の十三度の猛暑の中一同汗を拭き拭き江戸城の面影を偲ばせる手入れの行き届いた大芝生、雑木林竹林、石垣等約二時間参観した。緑豊かな内苑は大都会の真中とは思えない別世界の感があった。参加者一十名。  
なお、今回は幹事の不手際で行事が一日延期しましたことをお詫び致します。

## 次期繰越金内訳

現金	¥33,274
普通預金	¥318,723
振替口座	¥181,960
合計	¥533,957

## 特別会計 特別積立基金

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
一般会計より組入れ	1,000,000	次期繰越高	1,000,000
合計	1,000,000	合計	1,000,000

## 平成19年度収支報告書 (自平成19年1月1日至19年12月31日) 北海道道南会

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越高	1,462,180	行事費	1,728,264
年会費	693,500	通信費	178,400
行事会費	1,768,675	印刷費	257,180
寄付金	50,000	交通費	135,950
広告協賛費	71,000	交際費	136,000
雑収入	5,800	広告費	18,000
受取利息	1,910	消耗品費	30,716
未払金	25,520	会費	12,000
		雑費	29,158
		支払手数料	18,960
		特別積立基金	1,000,000
		次期繰越高	533,957
合計	4,078,585	合計	4,078,585

## 編集後記

2年後の平成22年には、東北新幹線が青森まで延伸します。そして、今から7年後の平成27年には、青函トンネルを経て、北の大地・新函館まで伸びて東京から3時間40分で函館まで行くことができます。昔、青函連絡船で函館・青森間がおよそ4時間かかっていたことを考えれば、隔世の感があるのではないのでしょうか？

ふるさと・函館までの時間距離が短縮されるのに比べ、親が亡くなり、兄弟姉妹も函館近郊に住んでおらず、言わば地縁・血縁が薄れてしまったという方も多いのではないかと思われます。道南会は、地縁・血縁を超越した繋がりを持つ仲間の集まりです。今後とも、会報や新年会、夏季懇親会、月例行事などを通して、ふるさと・函館(道南)の絆を皆さんで大切にしていきたいと思っております。

### 会報「道南」

二十年・夏号・通巻48号

発行 平成二十年八月三十一日

発行所 北海道道南会事務局

横浜市鶴見区生麦

四九 十三 八〇三

川守田 氣付

印刷所 富士製版印刷(株)

世田谷区下馬四十七七